

保健体育科 (体育・保健) 学習指導案

学 校 名 福岡県立〇〇高等学校

指 導 者 職名 氏名

実施日時 平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇曜日 〇時限

実施学級 第〇年〇組〇〇名 (男〇〇名、女〇〇名)

実施場所 〇〇〇〇

印

1 単元名

「領域」「型：種目」または「種目」

2 単元設定の理由

- 単元観 (ねらい、運動の特性、指導内容、教材の分析、教材の価値、指導内容の学年系統、学習指導要領の指導内容との関連等)
- 生徒観 (教材の内容に対する経験・知識・興味・関心、指導内容に関する学習経験・習熟度、アンケートや診断テストの活用等)
- 指導観 (目指す生徒の姿、ねらいを達成するための単元全体を通す活動、各段階における手立て、学習形態、言語活動の充実やICTの活用等)

3 単元指導目標 (到達目標) (学習指導要領の指導内容または観点別評価規準から)

- 運動の技能 「～ができるようにする。」
- 関心・意欲・態度 「～する態度を養う。」
- 思考・判断 「～を工夫したりできるようにする。」
- 知識・理解 「～を理解できるようにする。」

4 単元の評価規準

【参考】○評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 【高等学校 保健体育】平成24年7月 文部科学省国立教育政策研究所

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元の評価規準	<b>【評価規準の設定例】 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料</b>			
	～しようとしている ※安全は「〇〇している。」	～している。	～できる。	～、学習した具体例を挙げている。 ～言ったり書き出したりしている。
学習活動に即した評価規準	① 愛好的態度 ② 公正 ③ 協力 ④ 責任 ⑤ 参画 ⑥ 安全 ※安全は「〇〇している。」	① 体の動かし方や運動に関する思考・判断 ② 体力や健康に関する思考・判断 ③ 運動実践につながる態度に関する思考・判断 ④ 生涯スポーツの設計に関する思考・判断	① ～ができる。 ② ③ ④  学習指導要領の解説の例示を参考に具体化する。	① 〇〇は〇〇であることについて、言ったり書き出したりしている。 ② ③ ④

5 単元の指導と評価の計画 (全〇〇時間)

過程	ねらい・学習活動	評価方法				
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	方法
第〇時	「ねらい」 ～できるようにする。				①	(例) 【学習ノート】 【観察】
第〇時～第〇時 (本時 〇/〇)		①	②			【観察】 【学習ノート】
第〇時				①		【観察】

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
学習過程	0	準備運動・出席確認・学習内容の確認															
	10	オリエンテーション	復習としての活動・対人パス等			基本練習 パス等の練習								チーム別練習			
	20		ためのゲーム	サービス	スパイクブロック	基本練習 (ボールを持たないときの動き)		課題別練習			審判法	ゲームⅣ リーグ戦					
	30			ゲームⅠ 場やルールを工夫 ・ラリーゲーム		ゲームⅡ 場やルールを工夫 ・バトミントンコート利用		ゲームⅢ 課題認識をする ・ゲーム記録									
	40		学習の振り返り まとめ 整理運動 片付け 次時の予告														
50																	
指導時期	技能			①	②	④	③						⑤				
	態度		③	②				①									
	思考・判断					①				②						③	
	知識	①								②				③			
評価	運動の技能				①			②			③			⑤	④		
	関心・意欲・態度			③			②						①				
	思考・判断					①				②						③	
	知識・理解	①								②				③			

「運動の技能」が身に付く、「態度」が形成されるのには、時間がかかります。そのため指導と評価をずらして表示しています。

## 6 本時

(1) 本時の指導目標 (単元の評価規準及び学習活動に即した評価規準、指導と評価の計画との整合性を図る)

- ・単元の指導目標に対応させて重点化を図り、1～2項目に絞り、具体的な生徒の行動の姿で記述する。
- ・「(生徒が)～できるようになる。」等の行動目標を書く。

(2) 本時の手立て

本時の指導目標 (到達目標) を達成させるための教師の手立てを書く。

(3) 本時の授業仮説

- ・○○の学習において□□を××すれば (手立て)、△△できる生徒が育つ (指導目標) であろう。

(4) 教材

- 教師
- 生徒

(5) 学習の展開 (学習指導過程)

\*導入、展開、まとめは罫線で区切る。

	学習内容・活動	教師の支援 指導上の留意点	教材	時間 配当	学習 形態	評価規準と評価方法
導入	<p>○生徒が主体となるように記述する</p> <p>○学習内容と学習活動を区別して書く</p> <p>例) <b>1本時のねらい確認</b> ・ゲームのねらいを確認する</p>	<p>○教師の働きかけや支援、配慮事項等を左欄の学習内容・学習活動に対応させて具体的に記述する。</p>		分	一斉	<p>○本時の指導目標に対応させて重点化を図り、1～2項目に絞る。</p> <p>○「評価規準」及び「指導と評価の計画」と合致すること。</p>
展開	<p>「ねらい」を書く</p>	<p>○どのようにしたら生徒が「そうするのか」を考えて記述する。</p> <p>例) 「～できるようにするために～する場(活動)を設定する」等</p>			グループ	<p>&lt;表記例&gt;</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b> 「～しようとしている。」 「用具の安全について確認している」「確保している」など</p> <p><b>【思考・判断】</b> 「～を見付けている(選んでいる)。」など</p> <p><b>【運動の技能】</b> 「～することができる。」など</p> <p><b>【知識・理解】</b> 「～を言ったり書き出したりしている。」など</p> <p>○評価の方法を具体的に示す。 &lt;表記例&gt; (様相観察) (学習カードの記述)</p>
まとめ						

(6) 板書計画 (保健は要記載)